

NEWSLETTER No.33

編集・発行 甲南英文学会事務局
〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1
甲南大学文学部英語英米文学科気付
発行日 2002年 8月 1日

1 総会報告

第18回甲南英文学会定期総会が、7月6日(土)13時30分より甲南大学224号教室で開催されました。要素子氏を議長に選出し、以下の議題が審議されました。

(1) 2001年度決算報告

青山義孝氏より別紙のとおり2001年度収支決算が報告され、合わせて会計監査の報告のあと、会計報告は適正であることが拍手で承認されました。

(2) 2002年度予算案

青山義孝氏より別紙のとおり2002年度予算案が提案され、拍手で承認されました。

(3) 2003 - 2004年度役員について

任期満了にともない次期役員を選出する時期を迎えますが、20周年記念事業を来年度に開催することを考えますと、今期の役員が継続して役員を務めることが望ましいということに決まりましたので、引き続き会長を有村兼彬氏にお願いするというのが福島彰利氏より提案が出され、拍手で承認されました。そして、次期会長の有村氏より就任の挨拶とともに他の役員も引き続き今期役員の方々をお願いするはこびとなり、拍手で承認されました。次期役員は下記の通りです。

会長	有村兼彬	
副会長	入子文子	
会計	青山義孝	水本有紀
会計監査	小林敏彦	沖野泰子
大会準備委員長	井野瀬久美恵	
編集委員長	中島信夫	
幹事	福島彰利	大森幸享

ただし、今期会計の神原由紀子氏に代わり水本有紀氏が次期会計に就任いたします。

また、このたび評議員選挙を実施いたしました。選出された評議員の方々は以下の通りです。

Aブロック 1966-81年(昭和41-56)	松平勝
Bブロック 1982-91年(昭和57-平成3)	榎本恭弘
Cブロック 1992-98年(平成4-10)	南條健助

(4) 名誉会員について

規約により、柘矢好弘先生に名誉会員となっただくことになりました。また、名誉会員の渡邊孔二先生から退会したいというご希望があり、先生のご意向に沿うことといたしました。

(5) 20周年記念事業について

20周年記念事業に先立ち、記念大会実行委員会の委員長には会長有村兼彬氏が就任し、委員にはアメリカ文学、イギリス文学、英語学の3分野から各2名ずつ選出されました。

アメリカ文学	入子文子	青山義孝
イギリス文学	井野瀬久美恵	山口徳一
英語学	福島彰利	南條健助

2 研究発表

<英語学>

発表者	小林敏彦 (神戸親和女子大学)	発表者	牧木綿子 (甲南大学非常勤講師)
「島の効果とフェイズ不可侵条件」		新沼史和 (コネチカット大学)	
		「Repair Strategies in PF」	
司会	田中紀男 (天理大学)	司会	田中紀男 (天理大学)

<英文学>

発表者	水本有紀 (甲南大学大学院D2)	発表者	大森幸享 (甲南大学大学院D1)
「The Private Mary Chesnut における女性たち」		「Dombey and Son—Mr. Dombey の没落から救済へのプロットを通して」	
司会	井野瀬久美恵 (甲南大学)	司会	山口徳一 (甲南大学非常勤講師)

3 講演会

講師：川本静子氏 (津田塾大学名誉教授)

演題：イギリス小説を読む—ジェントルマン，マナーズ，エンパイア

司会：西條隆雄氏 (甲南大学)

[講演要旨]

イギリス小説は大陸やアメリカの小説と違って、novel of manners と呼ばれるものである。manners は「風俗」と訳すが、これは風俗のみならず、習慣、道徳、生き方をも含んでおり、イギリス小説に見られるものは、「紳士とは何か」「紳士はいかに振舞うべきか」であり、先生はこの問題に取り組み、その一連の研究が『イギリス教養小説の系譜』(研究社、1973年)として結晶したことを語った。紳士とは何かを追求する文学へと変わっていった19世紀のイギリス文学において、理想の紳士像が財産・家柄などの外的要素だけでなく、教養・振舞いなどの内的要素にも求められるようになり、紳士と非紳士とを区分する境界線を明確に引くことができなくなり、経験的な資質によって判断するものであると解説された。

次いで、先生の関心は、風俗小説の主たる担い手である女性作家へと移り、『ジェイン・オースティンの娘たち』(研究社、1983年)を著したことを語った。イギリス小説のヒロインたちがにわかに存在感をもち、成熟の域に達したことをひとつの節目と位置づけ、イギリス小説が女性的発想を受容した上にそれを助長し、女性による現実認識の手段となりえたことが女性作家の活躍の原因となったと解説された。

そして最後に、サイードの『オリエンタリズム』に刺激されて、小説と帝国が盛んに論じられるようになるが、とくに1870年頃から新しい女たちが登場してくることに着目して、関心をそちらに移したことを語った。そして帝国イギリスの反映した社会の中でイギリス小説のヒロイン像がどのように変わったのかを歴史的・文化的考察を交えながら解説された。先生の文学研究がどこに始まりどのように展開していったかをつぶさに語る興味深く印象的な講演であった。

講演会に引き続き、川本先生を交え懇親会が開かれ、盛会のうちに散会となりました。

4 編集委員会より

『甲南英文学』第18号への論文投稿の締め切りは、例年通り11月30日(土)です。奮ってご投稿ください。投稿に関する詳細については、『甲南英文学』に記載の投稿規定をご覧ください。